

第6期第6回横浜市子ども・子育て会議 放課後部会 会議録

日 時	令和6年8月21日(水) 18時30分～19時45分
開催場所	横浜市庁舎 18階 みなと4・5会議室
出席者	明石要一部会長、青山鉄兵副部会長、池田浩久委員、鈴木裕子委員、高杉陽子委員、辺見伸一委員、松本豊委員、三浦尚美委員、宮永千恵子委員
欠席者	保科優子委員
開催形態	公開(傍聴者0人)
議 題	(1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画の素案(案)について (2) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」(案)について

**(1) 第3期横浜市子ども・子育て支援事業計画の素案(案)について**

(事務局) 資料5に基づき説明

(明石部会長) 皆さんの意見が出る前に申し訳ないですけども、気に入ったところは、今回のタイトルが個人的には気に入っているんですね。全てのタイトルで「こども、みんなが主役! よこはまわくわくプラン」、これをもっと強調してほしい。非常にシンボリックで分かりやすい。これをお願いしたい。

次に気に入ったのは、39ページに7つの方向性というのがございまして、(1)の子育て家庭の「時間的負担感が軽減」されている、(4)の子育て家庭の「経済的負担感が軽減」されている、(5)のいつでも相談でき、「精神的負担感が軽減」されているというこのキーワードが非常に新鮮味を感じまして、この3つのセットを強調してくれると、結局やっぱり物理的も大変だけれども、もっと多くは心理的な負担があるので、よくこういうことで出してくれたなということで、これをもう少し強調してくれるといいかなと思いました。

あと、データで外国人登録が約12万人いますよね。そうすると、今回の放課後でも、医療ケアとか発達障害を持ったお子さんに対するケアをしますけれども、外国籍を持ったお子さんたちの放課後教室ではどういうトラブルがあるのか。それで、横浜ではどのぐらいのお子さんが外国籍で来ているかというデータがあるといいかな。例えば東京の江東区のある小学校では、1クラスで、中国系の方を含めて3名ぐらいいるんですね、30名で1割いるんです。言葉が不自由だから、ボランティアの方が来て授業中はついてあげているんですけども、放課後は誰もしていないので、だから、12万もいらっしゃいますから、放課後キッズクラブではどのぐらいのこどもがいらっしゃるかというのが分かれば、把握していただくといいかなと思います。

(池田委員) 今回のニーズ調査とかを拝見させていただきましたし、18区の当事者の声を聞く機会に私は参加させていただきましたけれども、数多くの声を聞いていただいているんだなと思って、安心を

したところでもあります。その中で1つ気になったところとしましては、やっぱり子どもたちが楽しかったというその声ですね。今89%のものを95%までにするというところですね。親からすると、子どもたちに「楽しい？」と聞いて、「楽しいよ」と言ってくれると安心して行かせられるんですね。全体的な割合からすると、11%とか5%というのはかなりの人数にはなると思うんです。なので、このあたりの現状値を目標値にするのはとても大事ですけれども、裏を返すと、今は計画だと思しますので、その数%が何で楽しくないのかなというところにも今後ちょっと目を向けていただくと親としてはうれしいなと思いましたので、一言付け加えさせていただきます。

(松本委員) いつもお世話になっている仲間にキッズクラブの指導員がおりまして、夏休み中、長期休業中の昼食の提供についてお話をする機会があったんですね。指導員に大変なことはありませんかと聞いたら、もう何もないと。ただ来たものを間違えずに子どもに渡すだけで、特に保管とかそういうのも、時間にきちんと届きますしという形で、そういう話をされていたので、アレルギーとかのときにはもう注文しないという約束になっているみたいで、特に大変なことはないという情報を1施設からいただいていますので、報告します。

(明石部会長) そういうケーススタディーが欲しいですね。そうすれば、担当者もちょっと安心できるではないですか。新聞報道では特別なものだけキャッチアップしますけれども、指導員の方々の負担感がないというのも、全部ではありませんけれども、そういうケースがたくさん上がってくると、新規事業ですからより安心できます。ありがとうございました。

(辺見委員) 53ページの一番最後のところにありました、「小学校の始業前等の朝の時間に、学校施設を活用して、子どもたちが安心して過ごすことができる居場所づくりに取り組みます」。これは、ご内容的にもう少し詳しく言うかどうかという状況でしょうか。

(事務局) こちらにつきましては今年度から始めさせていただいた事業で、今、青葉区のほうで2校でやらせていただいています。朝の居場所ということで、学校によって開く時間が違うんですが、昇降口が開くのが8時10分から15分ぐらいになるかと思うんですけれども、その前の時間帯にお子様を1回、お子様のいる居場所をつくらせていただいて、体育館であったり、別棟があるところは別棟といったところの一定のスペースでお子様に読書をしたり、折り紙をやったりといったような活動をしていただくというところで、この7月から始めさせていただきました。

今年度につきましては、この事業につきましては、多分4月に保護者の方というのは生活がお子様の入学とともに変わるといいうところもありますので、今年度自体はまだ利用の方は各1日ごと、ゼロから2という形であまり多くはないんですけれども、この事業があるということで前提になると、来年度以降、働き方とかを選択いただくときに、この事業があるならお仕事は朝からできるかなと考えていただける御家庭も出てくると思っておりまして、まだ小規模ではあるんですけれども、じっくり育てていきたいなというところで今やらせていただいているところです。

(辺見委員) 分かりました。それを運営するのは、キッズクラブのところを運営するというところで

すか。

(事務局) 今はシルバー人材センターのほうで朝の7時からやっているんですけども、7時から8時15分ぐらいまでの間見守っていただいているというところがございます。

(辺見委員) そうすると、それを増やしていくという計画があるとなれば、そういう学校もシルバーの方々頼むということになるのでしょうか。

(事務局) 事業形態につきましては今まさに手探りのところですので、今後変わっていくこともあるかなとは思いますが、まずはシルバー人材の方をお願いしている形で2校をやらせていただいているところです。

(辺見委員) 分かりました。お子さん第一なのでその辺も加味して、朝早いのは賛成なんですけれども、密に連絡が取れるか、こどもの安全にというのを踏まえてやっていただければありがたいです。

(事務局) お子様へのけがとかが生じないように工夫をさせていただきながらやっていきたいと思っております。

(明石部会長) 辺見委員のお話で、今試験的にやっていただいていますけれども、お願いしたいのは、保育所の場合に、月曜日と金曜日の朝の事故が一番多いんです。ですから、今のケーススタディーでやる場合に、7時からですよ。体がまだ回復していないときに、何曜日が一番トラブルが起きやすいのかとかというデータも取っておくと、次に事業形態が変わっても、何曜日のときに注意したほうがいいとかというアドバイスができますよね。ちょっとその辺も。

(青山副部会長) 全体を通じていろいろな観点を盛り込んでいただいて、よいものになっているのではないかと考えているのと、それから、いわゆるKPIとかが現実的なところになっているのがすごく印象としてはよかったと思っているんですけども、最後のところで、今この見えているところなんですけれども、昼食利用率が70%というのがありますよね。この昼食利用率はどうなんでしょう。こどもたちにとっては、多くの子が利用すれば利用するほどいい数値だというふうに考えて目標値70%にするということなのかどうかはまだ腑に落ちないところがあるんですけども、給食を提供できる箇所が増えていくのは、単純に数字が多ければ多いほどいいような気がするんですけども、利用率が増えることを目標にしているのかなというのをちょっと迷っていて、そのあたりを質問させていただきたいと思いました。

(事務局) 昼食の利用率につきましては、当然親御さんの御都合もあるとは思いますが、頼むに当たって当然お子様とお話しいただいた上で頼まれると思っています。これが7割に上がるということにつきましては、その背景にはお子様の満足度も当然高くなっているからこういった数値も上がっていくのかなと捉えておりますので、利用率という形で書かせていただいておりますが、満足度も含めて上げていかなければいけないと捉えております。今年やってまだ振り返りは終わっていないところなんですけれども、今年度を振り返ってお子様の御意見であったり、保護者の方の

御意見であったり、あとクラブの方の御意見等を聞いて少しずつよくしていったって、何とか11年度に70%という目標を立てさせていただいているところでございます。

(青山副部長) 気になっているのは、いわゆるKPIとして適切かということですね。数字だけに振り回されたりとか、70%を達成することがゴールになるのがいいことかどうかということが気になっていて、利用率が上がるのがとにかくいいことだという前提でやっていいものかがまだ理解ができていなかったということです。もちろん満足度が上がっていくのはいいことだと思うんですけども、この70%という数字が、昼食を利用してもらったほうがいいのかというあたりを含めて出てきている数字であれば問題ないと思います。

(明石部長) 大事な御指摘をありがとうございました。できましたら、昼食の設置率の割合と、満足度は数値が上がればいいですね。だから、利用度のほうは検討していただいたほうが。それはいろんな家庭がありますから、いや、うちは自分で弁当を作れるとかという家庭もありますので、青山委員がおっしゃるように、必ずしも昼食の利用率が高まることがKPIとしてはいいとは一概に言えないので、その辺は検討してくれますかね。

(事務局) 今、提供率というところだと、一応565か所全てでできるような状態にはなっているので、クラブによっては当然御自身のクラブで昼食を準備いただいているクラブとかもあるので、そういうところは使わなかったりはするんですけども、一応565か所全てのところで使えるような形で、状況としては100%の状況にはなっております。ただ、今いただきましたとおり、利用率が上がるのがいいのかというところはまたこちらのほうで持ち帰って考えさせていただきたいと思います。

(松本委員) 放課後部会とちょっと外れて、網かけのところではないんですけども、今日は部長さんもいらっしゃっているので、49ページの真ん中のところだけお伺いというよりも、心の隅に留めておいていただければと思うんですけども、こども・青少年の体験活動の推進ということで、「青少年指導員やこども会等青少年団体の活動を支援します」とありまして、想定事業量の名称というか、実施回数なんです。実施回数をどこでどうカウントしているかは分からないんですけども、多分この中には、地域との連携とか地域の大人との連携、盆踊りとかハロウィンとか資源回収、ここに入っているのは、地域としてこどもたちが、地域の育成者、親と一緒にやるものではないものだと思うんですね。だから、子ども会は、こういう自然・科学体験等プログラムは何だろうなど、ちょっとカウントしにくいものである。そういう意味で、例えば子ども会の会員数とか具体的ところでこども青少年局の支援がいただければということで、部会とは違うところなんですけど、せっきくこの立場で参加させていただいておりますので、また参考にさせていただければと思います。

(三浦委員) たくさんの課題があるんだなということを実感しまして、それを細かくいろいろ考えていただいております。

私が気になったのは 13 ページですけれども、13 ページの下のイのところの 2 つ目の丸、「夏の暑さが増している中で」というところなんですけれども、もう本当に夏の暑さが普通ではない状況になっている中で、キッズクラブに来ている区分 2 の子どもたちはキッズで過ごしているの、そこで友達と遊んだりもできるんですけれども、区分 1 の子どもは、熱中症アラートとかが出るとキッズのほうの利用ができなくなったりとかしまして、区分 1 の子どもは家庭で過ごしているんだろうなとは思いますが、それだけでいいのかなというのが私としてはすごく心配で、同時に 32 ページに、先ほども強調されていましたが、「あったらいいなと思う場所」、子どもたちのニーズ調査として、「建物の中で、思いきり遊べる場所」とか「友だちとたくさんおしゃべりできる場所」、「運動が思いきりできる場所」とかが夏の間はないなというような心配をしています。なので、このあたりについては、本当にこれから夏がずっと暑いのかなと思うと、ぜひ具体的に考えていただけたらありがたいなと思います。

**(2) 第 3 期横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」(案) について**

(事務局) 資料 6 及び別紙 1-1、別紙 1-2 に基づき説明

(松本委員) 「量の見込み」ということで今御説明をいただいて、こどもの数にある程度指数というか、割合を掛けたものということですから、単位的には人とかはつかない形で、今、お話の中では何人とおっしゃっていたんですけれども、あくまでこれは数字として捉えて、大体このぐらいの人数という解釈で捉えているか、そこだけちょっとお教えいただけますか。

(事務局) 単位につきましては記載をしていないんですけれども、人として捉えていただければと思っています。

資料	資料 1 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 委員名簿 資料 2 横浜市子ども・子育て会議放課後部会 事務局名簿 資料 3 横浜市子ども・子育て会議条例 資料 4 横浜市子ども・子育て会議運営要綱 資料 5 こども、みんなが主役！よこはまわくわくプラン素案 資料 6 第 3 期横浜市子ども・子育て支援事業計画における保育・教育及び地域子ども・子育て支援事業に関する「量の見込み」及び「確保方策」(案) について 別紙 1-1 地域子ども・子育て支援事業に関する量の見込み及び確保方策(案)の算出の考え方 別紙 1-2 第 3 期計画における地域子ども・子育て支援事業にかかる「量の見込み」及び「確保方策」(案)
特記事項	—